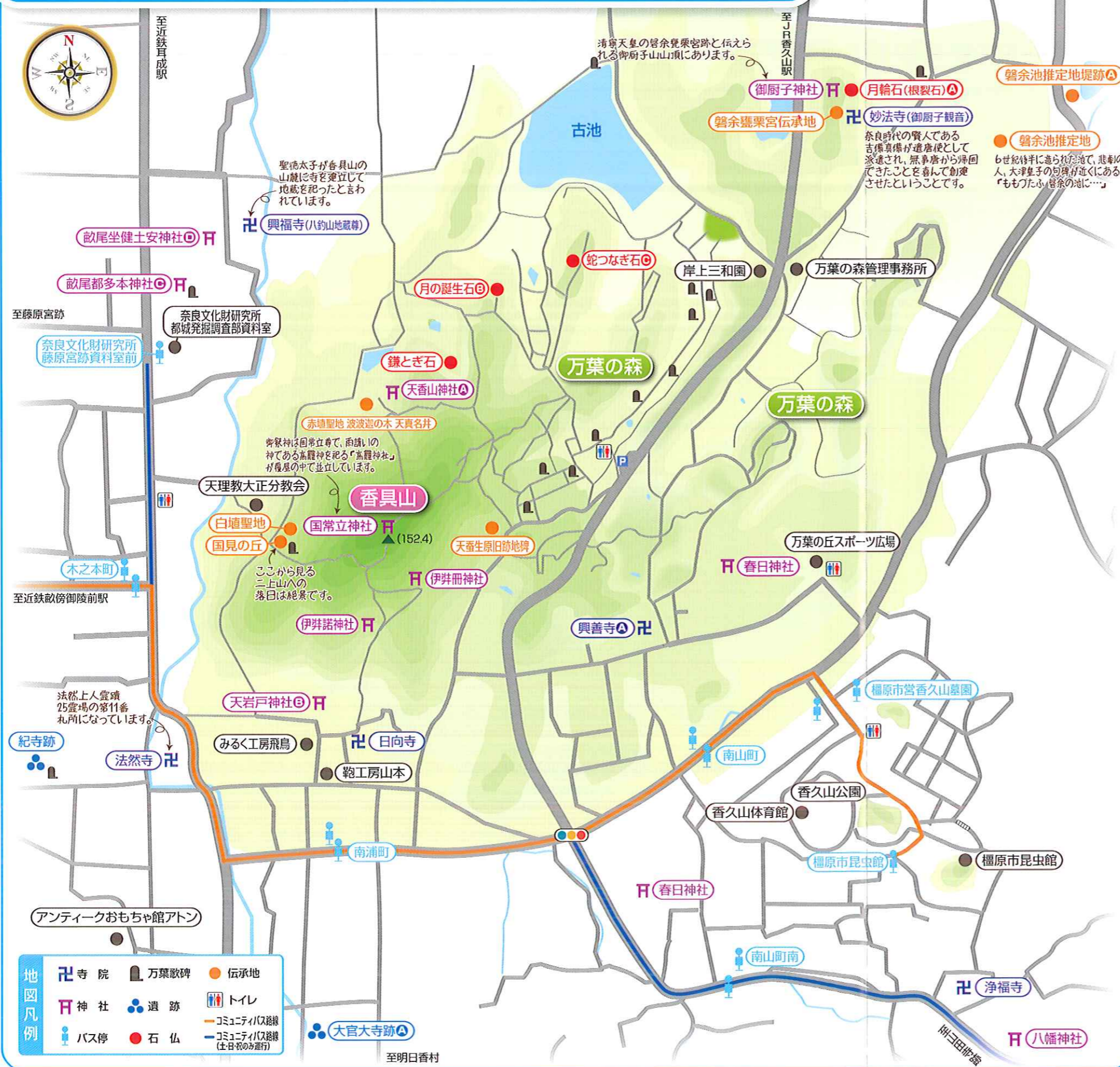


# 香具山周辺散策マップ

ぶらりと周って神秘で謎めく扉を開こう！



## 見所・魅力満載！ 壮大でミステリアスな ロマンに触れるチャンス！

古代人には「香しい山」「神聖な山」と崇められ、万葉集の三山歌の中では最も多く歌われた香具山。何気なく見える山も、少し神秘的な目で見ると、どこか謎めく魅力で溢れています。そんな不思議な香具山を、ぶらりと歩いて楽しんで下さい！

**香具山** 名勝大和三山のひとつで標高は152.4m。古代から「天」という尊称が付くほど三山のうち最も神聖視され、万葉集にも数多く歌われています。香具山やその周辺には、神話の中で一番初めに出現した国常立神を祀る国常立神社や天照大神を祀る天岩戸神社、ト事占兆を司る櫛真知神を祀る天香山神社などがあります。また月の誕生石・蛇つなぎ石と呼ばれる謎に満ちた不思議な石が点在している大和三山の中でもっとも神秘的な山です。

**A 天香山神社** 香具山の北側の山麓にあり、御祭神は櫛真神とされています。境内には天の岩戸神話に香具山の雄鹿の肩の骨を抜きとって波波遊の木で焼き吉岡を占ったとされる古の木「波波遊の木」があります。

**A 月輪石(根裂石)** 御厨子神社の広庭北東部の数メートル下の斜面にあって、長さ3.7m、高さ1.4m、巾1.9mの中央に巾38cmから41cmの裂目のある自然石の巨石があり、根裂神あるいは石裂神とも呼ばれ、古代からの磐座信仰の名残といえるかもしれません。

**B 天岩戸神社** 御祭神は天照大神で、「古事記」「日本書紀」の神話にみえる天照大神が岩戸に隠れた所といわれ、今もなお巨石が4個あります。山の斜面に自生する真竹は古来「七本竹」といって、毎年七本が枯れて、七本が新たに生えるといわれています。

**B 月の誕生石** 花崗岩の巨石で、高さ1.5m、幅6.5m、奥行き3mほどもあり、全体の3分の1くらいの位置に幅20cmほどの窪みによって、二個の石のように見えます。石はあかかも好婦が鏡帯をして、横たわっているように見え、円形の黒色の斑点は月が使った産湯の跡で、小さな斑点は月の足跡と伝えられ、この石から月が産まれたという言い伝えがあります。

**C 畝尾都多本神社** 本殿はなく、玉垣で囲んだ空井戸を御神体としています。降沢女命を御祭神とすることから「哭沢(なきさわ)の神社(もり)」とも呼ばれています。降沢女命は、伊弉那美命(いざなのみこと)が火の神を生み、亡くなったことを悲しんだ伊弉諾岐命(いざなぎのみこと)の涙から生まれた水の女神です。

**C 蛇つなぎ石** 高さ1.5m、幅4m、奥行き2.5mの大きな石です。香具山の北に張り出した尾根にあり、石の左手方向に回りこも、竪模様があり、あたかも鎖でも巻きつけた痕のように見えます。香具山は俗に竜玉山ともいわれ雨乞いの神事がよく行われていました。山頂に祭られる高倉神(たかおのかみ)が、雨乞いの神事に導き出されたとき、うち跨ってきた龍(大蛇)を繋ぎ止めたのでしょうか。

**D 畝尾坐健土安神社** 御祭神は、健土安比売命(たけはにやすひめのみこと)と天児屋根命(あめのこやねのみこと)です。健土安比売命は、古事記に記す波遊夜須見売神(はにやすひめのかみ)で、伊弉那美命が火の神を生んだ時に尿から生まれた土の神様です。

**A 磐余池推定地堤跡** 磐余(いわいれ)池の推定地とされる池の堤跡は、戒外(かいげ)川左岸から西の妙法寺へかけて東西に伸びる高まりが残っています。谷の出口を塞ぐように堤が築かれ、池の範囲は東西約700m、南北600mと推定されています。

**A 興善寺** 古くから「香久山の文殊さん」と呼ばれており、出土の古瓦から、創建は白鳳時代で、中世は興福寺に属し「香久山寺」、また「興福寺三学院」と称し、僧坊8宇を有する大寺でした。

**A 大官大寺跡** 平城京の大安寺の前で、藤原京の左京に造営されましたが、建設途中の和銅4年(711)に火災によりすべて消失しました。藤原京の時代には官寺の筆頭で、当時の日本では最も高層であった九重塔をもつ飛鳥最大の寺院であったことがわかっています。